

災害にも強い多文化共生地域づくり事業

【ホームページ】 <http://tsutamaru.or.jp>
【ブログ】 http://blog.canpan.info/tsutamaru/category_5/

NPO法人伊賀の伝丸
平成24年6月 報告

シンポジウム「大震災から学ぶ多文化共生のまちづくり」開催しました！（6月分報告ですが、7/1までとさせていただきます）6月中、1ヶ月をかけて、チラシ約5800枚配布、WEBサイト・facebookなどでの告知、メールや電話などでの誘いをし、多くの方に参加いただきました。協働パートナーの皆さま、関係者の皆さま、当日もスタッフとしてたくさんのご協力ありがとうございました。参加の皆様もお忙しい中、またご遠方からのご参加もありがとうございました。

参加者数

定員を超える155名のご参加をいただきました。（内外国出身者推定34名）

大村昌枝さん基調講演（一部紹介）

- 宮城県は日本人男性と結婚した中国、韓国、フィリピンの女性が一番多く、地域に点在している。
各地域の日本語教室が安否確認、生活・復興支援に力を発揮。
セーフティーネットの役割を果たした。
- 想定外の津波と原発事故が起こった。災害はワンパターンではない。
あらゆる想定をし、機動力の強化が大事。
- プレートの違う地域の団体などを含めて、多様な連携の模索が必要。



大村さんの講演(DVDを放映しながら)

パネルディスカッション（一部紹介）

- 三重県、伊賀市の多文化の現状
- 伊賀在住の外国人は20代、30代の若者が多く、「要援護者」よりも「支援者」として外国人に参加してもらうことを意識する。
- 地域活動への外国人の参加が現状は難しいが、まず夏祭りなどの地域行事の運営に参加してもらい、交流から地域活動へと繋げて行く。焦らずじっくりと。



パネルディスカッションの様子

通訳対応

ポルトガル語、スペイン語、中国語はイヤホンガイドによる通訳を実施。19人が利用。その他の母語話者には、簡易日本語でのサポートを実施

ロビー展示コーナー

- 写真パネル
 - ・岩手県山田町でのボランティア活動の様子（みえ防災ボランティアセンターから拝借）
 - ・三重県の多文化の現状について（三重県多文化共生課より）
- 三重県警のブース 多言語冊子「日本での生活ルール」の配布
- 多言語雑誌、冊子などの配布など



写真パネル展示

シンポジウム参加者を代表して、最後に外国出身者からも感想を発表してもらいました。「外国人もいつまでも助けてもらうのではなく、何か（地域活動に参加）したいと思っています。（日本人と）同じ気持ちです。」とありました。外国人もまちの力に！そこに多文化共生のまちづくりの糸口があるのではないのでしょうか。

多文化サークル 始動！ また今後の予定など

- ◇シンポジウムの記録DVDをポータル三重（株）とともに編集、他地域での活用を目指します。
- ◇シンポジウムのアンケートを分析し、反省と今後の展開に生かします。
- ◇小田町で多文化サークル活動開始のサポート（7/8に会としての始動と、8/4夏祭りでの出店を予定）